

氏 名 : 新 田 純 子
学 位 の 種 類 : 博 士 (健 康 科 学)
学 位 記 番 号 : 研 博 第 28 号
学 位 記 授 与 年 月 日 : 平 成 27 年 3 月 10 日
学 位 授 与 の 要 件 : 学 位 規 則 第 4 条 1 号 該 当
論 文 題 目 : 脳 死 ド ナ ー を ケ ア す る 看 護 師 の 経 験 の 構 造 化 に 関 す る 研 究
論 文 審 査 委 員 : 主 査 上 泉 和 子
副 査 中 村 由 美 子
副 査 リ ボ ウ ィ ッ ツ よ し 子

論 文 内 容 の 要 旨

I はじめに

脳死下臓器提供に初めて関った看護師の倫理的葛藤やドナー家族へのケアに対する不安全感が報告されているが、それらを克服しケアを発展させる要因や過程は明らかになっていない。本研究では、脳死ドナー家族のケアに焦点を当てて、ケアの発展的示唆を得る観点から、脳死ドナーをケアする看護師の経験の構造を探るため、経験のプロセスを明らかにすることを目的とする。

II 研究方法と対象

質的記述的研究デザインにより、脳死ドナーをケアする経験のある看護師 7 名に対して、2008 年 9 月から 2009 年 1 月に半構成的面接を実施した。収集したデータは、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。分析手順は、データの継続比較分析によりカテゴリーを抽出し、カテゴリー間の関係を検討し構造をあらわした。倫理的配慮は、対象者に対して研究の目的、研究協力の任意性とプライバシーの確保、協力の如何により不利益が生じることのないことを文書により説明し署名により同意を得た。

III 結果

脳死ドナーをケアする看護師の経験のコアカテゴリーとして、11 のカテゴリーと 22 のラベルから成る《ケアへの不確かさと揺らぎに挑む》が抽出された。脳死ドナーをケアする看護師の経験は、《経験的学習》と《ケアへの実存的価値づけ》のプロセスから成り、これらの過程を経て獲得した【経験からの学習】と、見出した【ケアの実存的価値づけ】がきっかけとなり、【脳死ドナーケアの発動力の進展】へとケアが発展する構造を生成した。

IV 考察

脳死ドナーをケアする看護師の経験のコアカテゴリー《ケアへの不確かさと揺らぎに挑む》とは、クリティカルケアの領域特性にある代理決定支援という状況の局面の重要性の理解に基づき、ドナー家族との相互作用を通してあるいは看護師自身の内面で生じるケアへの不確かさと揺らぎを前提として、それによって生じる認知的不協和を低減しようと能動的に挑戦することである。【経験からの学習】は、脳死ドナーをケアする経験を積み重ねることが難しいわが国において、“見本がない”ケアへの不確かさに挑む看護師に特有な、ケアの発展を導くきっかけとなることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、脳死ドナーの家族をケアする看護師の経験のプロセスに焦点をあて、脳死下臓器提供に関わった経験がある看護師へのインタビューから、グラウンデッドセオリーアプローチを用いて探求したものである。

脳死ドナーをケアする看護職の経験の中核となる概念は、《ケアへの不確かさと揺らぎに挑む》で、脳死移植の経験が少なく見本がない状況への看護師の挑戦的経験であった。この経験は、「経験的学習」と「ケアの実存的価値づけ」の二つのプロセスが導かれた。経験からの学習は、脳死ドナーへのケアの経験を積み重ねることが難しいわが国において、不確かさに挑む「きっかけ」をもたらすものであった。

本研究は質的研究の手続きにのっとり緻密に分析している。また方法論にも精通しており分析結果の信頼性、妥当性が高い。得られた知見は今後の脳死ドナーケアの発展に寄与

できるものと評価された。これらのことから、博士（健康科学）の学位授与に値すると判断する。